



# 学院史編纂室便り

No. 36  
2012年11月1日  
関西学院 学院史編纂室

## 吉岡美国第2代院長ご令孫とそこご家族の来訪

6月13日、吉岡院長のご長男吉岡美清さんのご長女岡田陽子さん(左)と次女庄ノ敬子さん(右)が、それぞれのご子息(岡田義行さんご夫妻と庄ノ弘英さん)と共に関西学院を訪問されました。双子のお二人は米寿を記念して、仙台と大阪からお越しになりました。このご訪問を当室にお知らせくださったのはご令弟吉岡美和さん(鎌倉市在住)で、2006年の吉岡記念館開館時には三姉弟揃って本学をお訪ねくださいました。



当室資料庫で数々の遺品や写真を前にお話を伺った後、吉岡記念館にご案内しました。その後、法人部横の会議室に場所を移し、ルース・グルーベル院長、田淵結宗教総主事を交えてお茶の時間を持ちました。お二人はお祖父様と一緒に暮らしておられたので、数々の思い出を語られました。C. J. L. ベーツ院長の写真を特別熱心にご覧になっていたのも、理由をお尋ねすると、「ベーツ先生のファンでした」と告白されました。「だって男前だもの。だから、ベーツ先生の家にしゅっちゅう遊びに行っていました」そうです。お二人はお祖父様の遺品を今もお持ちとのことでした。

## 小冊子『天の時、地の利、人の和 - 関西学院第2代院長吉岡美国 -』の作成

吉岡記念館開館を記念し、同館と当室が協力して開催した「関西学院を育てた人 - 第2代院長吉岡美国」展(2006.9.26~10.5)の「写真でたどる吉岡美国の生涯」と『学院史編纂室便り』第22号(2005.12.1)、23号(2006.5.1)に掲載した「吉岡美国院長の遺品」に手を加え、まとめた小冊子を時計台ロビーで配布しています。冊子の内容は当室ウェブサイトからもご覧いただけますが、吉岡院長については、吉岡記念館のウェブページも併せてご覧ください。

## ランバス・デイの開催 ~パールリバー・チャーチより~

10月4日午後2時半、ランバス家の故郷ミシシッピ州パールリバー・チャーチでランバス・デイが開催されました。これは、ランバス一族の偉業を偲んで、毎年10月第一木曜日に行われているものです。史跡となって今は使われていない教会に、今年もランバス家縁の方々やマディソン教会員等約50名が集いました。参加されたジョン・ルイスさんからの情報(右の写真も)によると、現在、ランバス家の記念碑と墓の整備(洗いと修復)費用捻出のための募金活動が行われているそうです。現地の募金活動責任者にお尋ねしたところ、必要額は\$4,000とのことでした。



## D. A. クラグストン教授のご子息が次期駐日カナダ大使に

カナダ外務省の発表によると、次期駐日大使にマッケンジー・クラグストン(Mackenzie Clugston)さんが任命されました。同氏は、1954年から61年まで本学神学部で教えておられたD. A. クラグストン教授のご子息です。大阪でカナダ総領事をされていた時、親しいご友人赤松正昭さん(社会昭41)の招待を受け、グリーンクラブフェスティバルに来られました。宣教師館周辺を散策し、幼少時代の思い出をお聞きになった赤松さんは「周辺の川でザリガニ捕りをよくしたと話しておられました」と教えてくださいました。

## 第37回関西学院史研究会の開催

次の通り開催しますので、ぜひご参加ください(一般参加歓迎・申込み不要)。

日時: 11月9日(金) 15:10~16:30  
場所: 吉岡記念館3階会議室1(西宮上ヶ原キャンパス)  
演題: 関西学院と福祉の系譜 - 岩橋武夫とその周辺 -  
講師: 室田保夫(関西学院大学人間福祉学部教授)

